

IBM FAX Directorの代替ソリューション

—送信量・送信時間・コスト・拡張性など導入の考慮点—

outline

- ▶ サポート切れのFAX Directorを使い続けている多数のユーザーがいる
- ▶ トラブル時の対処の問題、老朽化による障害が顕在化
- ▶ リプレースは、ユーザー個々の問題解決がテーマになる
- ▶ 検討すべき項目は、コスト・運用管理・拡張性など多岐にわたる

FAX Director ユーザーが抱える問題・課題

日本IBMが1990年に発売し数年前に生産中止／サポート中止となった「FAX Director」を、今なお使い続けているユーザーは非常に多い。しかし、トラブル時の対処に不安を抱えていたり、FAX 送信量の増大に伴う送信終了時間の遅れをスタート時刻の前倒しなどでカバーしていることが少なくない。FAX Directorの老朽化に起因する障害や問題も、少なからず起きている。本稿では、IBM i帳票の自動FAX送信手

段として利用されているFAX Directorを、同じFAX 送信へリプレースする際の考慮事項について考えてみたい。もちろん、FAX 送信からメール送信への変更もPCがほぼすべての企業に普及した現在、十分に検討対象になるが、相手先が外部企業である場合はそう簡単にスイッチできない。ここでは、FAX 送信へのリプレースを前提に話を進めることにする。

リプレースを検討するにあたってまず整理すべきなのは、FAX Directorのユーザーがどのような問題・課題を抱えているかである。

それは個々のユーザーが日々直面していることで、その解決こそリプレースのテーマだが、最適な解決策を見出すのはそう簡単ではない。コスト・移行にかけられる時間、将来にわたる拡張性、運用管理機能、セキュリティなど多面的な検討が必要になるからだ。以下、チェック項目を洗い出していこう。

●自社導入か外部サービスの利用か

FAX Directorの代替ソリューションを考える上で大きな岐路となるのは、自社導入か外部サービスの利用かという選択である。自社導入の場合、IBM i上

図表1 代替ソリューション検討時のチェック項目

図表1 代替ソリューション検討時のチェック項目	
検討カテゴリ	チェック項目
IBM FAX Director のサポート終了 ↓ 代替手段の検討 →	切り替え・導入 拡張性 機能性・使い勝手 コスト メール送信等との併用 運用管理 セキュリティ
	☐ 自社導入か？ 外部サービスの利用か？ ☐ 短期間に導入できるか？ ☐ 過去の投資を活用できるか？
	☐ FAX 送信量の増大に柔軟に対応できるか？ ☐ 回線数の増設をスムーズに行えるか？ ☐ FAX サーバーを簡単に増設できるか？
	☐ 送信完了までどれくらい時間がかかるか？ ☐ A3 / B4 サイズにも対応しているか？ ☐ オーバーレイ機能があるか？
	☐ 通信料はどれくらいかかるか？ ☐ 同一地域・近距離への送信が多いか？ ☐ 遠距離への送信が多いか？
	☐ メール送信と併用できるか？ ☐ ファイル送信やサーバー転送と併用できるか？ ☐ 電子保管・電子帳票機能があるか？
	☐ 送信ステータスを確認できるか？ ☐ 受信・送達確認ができるか？ ☐ ペンダー・サポート体制は整備されているか？
	☐ 送信時の暗号化処理機能はあるか？ ☐ 利用者権限管理は行えるか？ ☐ パスワード・ロック機能はあるか？
	☐ OS のバージョンアップに対応できるか？ ☐ IBM i の最新 OS に対応しているか？ ☐ 画像・バーコード・QR コードに対応しているか？ ☐ 海外でも使用できるか？実績があるか？ ☐ FAX サーバーの導入・運用コストは？ ☐ 年間保守契約料は？ ☐ トラブル発生時の緊急対応コストは？ ☐ 公正取引委員会のガイドラインに準拠しているか？ ☐ 不達発生時に管理者にメール等で通知が行われるのか？

図表2 主なIBM FAX Director 代替ソリューション

製品／サービス名	ワンポイント	概要	提供会社	URL/ 電話
@Tovas	インターネット帳票送信サービス (SaaS)	FAXでもメール（ファイル送信・SSL暗号化）でも送信可能なSaaS型サービス。スプールファイル帳票生成ツール「UT/400-iPDC」と連携	コクヨ S&T 株式会社	www.attovas.com 0120-594-550

にFAXサーバーソフトを導入し、さらにPCサーバー機などで専用サーバーを立てる必要があるが、FAX Directorで使用中のFAXボードを流用できたり、業務アプリケーションの変更を最小限で済ませられるなど切り替え時のコストを最小化できるメリットがある。一方、外部サービスを利用する場合は、連携するプログラム（モジュール）がIBM i上に必要になるが、専用サーバーの導入や運用管理は不要で、よりスピーディに導入できるメリットがある。

●拡張性

FAX送信量の増加が将来的に見込まれるような業務では、これに柔軟に対応していけるか否かが重要なポイントだろう。外部サービスならASPセンター側のスケーラビリティによって難なく対応が可能で、追加投資は不要である。自社導入の場合は回線やFAXサーバーの増設が不可欠となるので、FAXサーバーソフトの対応回線数や新規にFAXサーバーを設置する場合や将来的な老朽化によるリプレース時の追加投資額を算定しておく必要がある。

●機能性・使い勝手

相手先に送信する帳票はビジネス文書なので、目的に応じた作り込みが必要になる。最近のFAXサーバーソフトでは、オプション提供を含めてオーバ

レイ機能を備える製品がほとんどだが、得意先指定帳票などきめ細かな作票が必要なこともあるので対応機能の確認をしておきたい。外部サービスでは、IBM i上で帳票作成を行えるツールを別に揃える必要があるが、連携製品がカバーしていることが多い。このほか利用内容によっては、A3／B4サイズへの対応や、海外での使用および海外への送信が可能か要チェックになる。

●コスト

代替ソリューションを検討する際、切り替え時のインシャルコストとその後のランニングコストは、最も精査が必要になる項目だろう。自社でFAXサーバーを運用する場合は、通信料は送信先までの距離によって変動する。つまり、近距離ならば安く、遠距離は高い。この点、外部サービスは全国一律なので、通信距離だけに着目すれば、近距離への送信が多いケースでは自社運用のほうが割安となり、逆に遠距離送信が多ければ外部サービスの方が割安ということになる。このほか、年間保守料やトラブル対応時のコストなどもチェックすべき項目である。

●メール送信等との併用

本稿では、FAX送信のリプレースとしているのでメール送信については触れていないが、将来的にメール送信へ

の段階的または一括での変更は大いにあり得るだろう。メール送信ツール／サービスを揃えているか、さらに公正取引委員会下請取引における電磁的記録の提供に関する留意事項（平成13年3月30日）に対応しているか否かも要チェック事項である。その他、IBM iスプールファイルの一連の処理で、帳票の電子保管が必要になる場合もある。確認しておきたい機能である。

●運用管理

送信した帳票が今どういう状況にあるのか、相手先に届いたのか用紙切れなどで不達になっているのかなどの確認は、日々の運用では非常に重要である。不達が発生した時に、システムに参照しに行く必要があるのか、管理者にメール等で通知がなされるのかも大きなポイントとなる。また、トラブルが生じた際の切り分けや迅速な復旧サポートも必要になる。ベンダーのサービス／サポート体制も確認しておきたい。

●セキュリティ

セキュリティの必要度は送信内容や企業の内部統制に関する考え方によるが、最近ではコンプライアンスの観点で必要になる場合が多い。利用者の権限管理が行えるか、送信時の暗号化処理機能はあるかなど、必要事項をチェックする必要がある。